



学校通信

平成31・令和元年度 第3号
令和 元年 6月 4日
練馬区立開進第三小学校
校長 岡部 良美

「子供も大人も幸せになれる心得」

校長 岡部 良美

5月20日（月）から23日（木）までの4日間、6年生は軽井沢移動教室を実施しました。豊かな自然環境の中で、『自立と共生』を実践する活動を行いました。相手意識をもって、『自分のことは自分です』、『みんなが気持ちよく過ごせるために、思いやりの気持ちをもって協力したり、感謝の気持ちを表したりする』。日常生活の中では、保護者の方の助けを得てしていることを宿泊体験の中で、自分たちの力のできるかが大きな期待でもありました。初日は個々に『自立と共生』への意識の違いが見られました。しかし、よさを教師から褒められ、課題は自分たちで解決することを続ける中で、日一日と全体の意識が高まり、揃ってできる場面が随所に見られました。最終日の群馬県立歴史博物館では、学芸員の方から、「歴史に興味をもって、こんなにたくさんメモをしっかりとっている子供たちは初めてです。」と褒めていただきました。うれしい瞬間でした。

さて、子供も大人も、幸せへの願望をもっています。幸せは自ら掴むものであり、自ら心がけていくことが必要です。では、どのように心がければよいのでしょうか。その第一歩は、言葉掛け、言葉遣いです。どんな言葉を掛ければよいのでしょうか、どんな言葉遣いをすればよいのでしょうか。ある提言を紹介しますので参考にして、子供も大人も幸せになって欲しいと考えます。

<親の在り方への提言>

- 1 「子供を褒めることも、叱ることも、教えることも、全部必要なことです。30%褒めて、20%叱って、50%教える。このぐらいのバランスがちょうどよいのです。」
- 2 「子供は自由でいたい欲求が強く、親は子供をコントロールしようとする欲求が強いものです。子供をコントロールしようとする力がどのくらい強いのか、親は自己分析をする必要があります。」
- 3 「子供が言った言葉をメモしてください。いろいろな想いや感情が含まれたその言葉に、子供の本音が見えてくるものです。親に何か訴えているかもしれないのです。」
- 4 「親は子供に教えなければなりません。相手の痛みや苦しみを
感じ取る能力『想像力』を育てることが大切です。」



<いじめに対する提言>

- 1 「親が『あなたがいるだけで、うれしい』という子供への愛を忘れない生き方をすることです。それを大切にすれば、いじめは起こらないものです。」
- 2 「子供は、親を見て育つものです。いじめをする子供の親は、いじめをしているし、嘘をつく親には、嘘をついてしまう子が育つということです。」
- 3 「いじめをしない子に育てたいなら、まず、親が、どんな人間をも認められる広く豊かな心をもつことです。」

『令和最初の学校生活 みんなで協力開三小』。代表委員会で決まった今年のスローガンです。新たな時代を生きる子供たちの想いと決意が伝わってきます。